

# 「秋田大学学生海外派遣支援事業」帰国報告書

2013年5月19日

所属：教育文化学部 学校教育課程 教科教育実践選修 4年

氏名：中林 侑大

派遣先大学：セント・クラウド州立大学（アメリカ合衆国）

派遣期間：2012年8月20日～2013年5月10日

渡航年月日：2012年8月19日

帰国年月日：2013年5月12日

<派遣先大学における授業等の履修状況>

授業コード	授業名	履修期間	講義時間（週）	取得単位数
ED 458	Literacy L-2 Learners	Fall 2012	3時間	3.00
ENGL 466	American English	Fall 2012	3時間	3.00
ENGL 461	Tchg ESL: Theory/Method	Fall 2012	3時間	3.00
ESL 151	Admin Orié Intl Student	Fall 2012	2時間	1.00
ESL 202	Reading and Writing	Fall 2012	4時間	4.00
ENGL 468	Intro Testing Lang Tchrs	Spring 2013	3時間	3.00
ENGL 463	ESL and Culture	Spring 2013	3時間	3.00
ENGL 462	TESL Methods: Rdg/Wrtg	Spring 2013	3時間	3.00
ENGL 469	Language Planning/Policy	Spring 2013	3時間	3.00

<研究・学習概要及び今後の勉学計画>

セント・クラウド州立大学（以下、SCSU）では、前期に ESL の授業（英語を第二言語として学習する学生のための、英語の基礎を学ぶ授業）を受け、他にも前期後期を通して様々な授業を取りました。ESL での授業の様式は全て同じ時期に来ていた留学生たちと学び（1クラス12人程度）、他のクラスは、院生、学部生、30歳や50歳くらいのシニアの人たちといった、たくさんのネイティブスピーカーのアメリカ人と授業を受けました。例えば、アメリカの方言について学ぶ授業や、英語の読み書きの教授法を学ぶ授業、言語政策やテストなど、日本ではなかなか学べないことにたくさん触れることができました。

また、授業の様子は、どの授業も学生が積極的に発言をし、ときには教授の発言を遮ってまで喋る光景を見ることもしばしばありました。ディスカッションも盛んで、私はアメリカの授業に慣れるまで最初は戸惑いましたが、周りのアメリカ人の友だちや、教授のアドバイスなどもあって、徐々に話し合いにも積極的に参加できるようになっていきました。

今後は、卒業論文のテーマでもある”Error Treatment”に焦点を置き、アメリカで学んできたこと（例えば、小学校低学年児童と中学生に対する、Speaking 活動の教授、評価の仕方の違い、留意すべきこと等）を活かしつつ、卒業論文の制作に励んでいきたいと思っています。

### <生活面>

#### ▼住環境

私は、Lawrence Hall という学生寮に住んでいました。SCSU には、学生寮がいくつもあり、留学生は基本的にはアメリカ人（主に 1 年生）とルームシェアをするということになっています。一つの部屋を、異なる文化や言葉を持つ人間が共有するということは、とても大変なことでしたが、今思うと、アメリカでしかできないとても貴重な経験だったと思います。



秋に撮影した Lawrence Hal

#### ▼食生活

食生活に関しては、Garvey's Common という食堂をほとんど利用していました。秋田大学の様に、ミールプランから選べることもあれば、現金で支払うこともできますが、大きな違いは、全て食べ放題だという点です！アメリカの料理というと、あまり良いイメージを抱かない人もいるかもしれませんが、おかげで毎日多くの野菜をちゃんと摂ることができました。他にも、学内には日本でも有名な Subway やコンビニ、Caribou というスターバックスのようなコーヒーショップやその他いくつかのファストフード店があり、キャンパス内の飲食店はとても充実しています。

日本食を手に入れることはとても難しいです。第一に、置いている品数が少ないということと、第二に、輸入品なので値段がとても高いということです。日本食レストランも、大学からバスで 15 分くらいの所にありますが、値段はやはりとても高いです。

## ▼気候

セント・クラウドは、夏はとても空気が乾燥していて、日本の様に蒸し暑いということはありませんでした。強い日差しを感じることはありましたが、ぼくのように、日本海側で生まれ育ち、秋田大学から来た人間としては、むしろそれが心地良く感じられたほどでした。対して冬は、耳がちぎれそうになるくらいとても厳しい寒さでした。雪が強い日だと、警報が出て授業が中止になる日もありました。



凍ったミシシッピ川

## <その他>

SCSU では、課外活動にも積極的に参加しました。例えば、秋セメスター（アメリカにきた最初の学期）では、寮の仲間と一緒にサッカーチームを作って、大学のリーグに参加しました。最初は息抜き程度にこなしていこうと思っていたのですが、様々な国のの人たちとスポーツを通して交流できたことは、単に授業やその他日常生活の場面で仲良く会話する時とは違った、まさに活きた異文化交流を体験することができました。サッカーということもあって、ときには感情的にチームメイトに怒鳴ってしまうこともありましたが、試合で勝った時に喜びを爆発させ、チームメイト達と抱擁を交わして勝利を祝福したとき、世界中の人たちと何か一つで繋がったような、不思議でいてとても幸せな気持ちになりました。これこそ目的は何であれ、英語は世界中の人たちと繋がりを持つための、非常に大切な言葉であるということ再認識できました。

また、私は **JP Network** という、日本の文化に触れることを目的とした、日本に興味がある学生で構成されているサークルにも参加しました。春セメスター（後期）には、ジャパナイトという大きなイベントを開き、大学内外から 400 人以上のお客さんが来場しました。そこでは日本食を振る舞ったり、日本に因んだ劇、ダンス、太鼓の演奏、ファッションショーをしたりし、多くの仲間たちと協力してこの大きなイベントを成功させることができました。このサークルで活動していた時は、授業の時と同じくらいかそれ以上に英語でのやり取りが求められたり、事務的な仕事（文書作成等）も経験したりしたので、とても自分の語学力の向上に役立ったのではないかと思います。

最後に、留学全体を通して得た大きなことを記したいと思います。それは、日本の良さに改めて気づかされたということです。アメリカがひどい国だった、という意味ではもちろんなく、アメリカ以外にも、諸外国と比べて日本は恵まれている部分がたくさんあり、そのありがたみや、日常の何気ない幸せを改めて感じることができました。また同時に、

日本だけでなく、世界にも関心を向けることの大切さも知りました。経済的にも恵まれ、実質、日常生活の中で英語を話す必要のない日本人が、これから世界と向き合っていく時に考えなければならないことは何か、日本の状況、世界の状況を知り、自分が世界とどう関わっていくのか、ということ、今回の留学で改めて考えさせられました。自分の夢である教師という職業になれたとしても、またなれなかったとしても、将来自分が子どもたちに、今回の留学で得た広い視野と、世界中の人たちと交流することの素晴らしさを伝えていけたらいいなと思っています。



JP Network のメンバーとジャパンナイト後にて